

◎ 移住者を
受け入れた島

上西集落支援員だより

西之表市地域支援課
上西集落支援員
馬場 信一 編集
連絡先090-9579-3953
上西校区長責任発行

多くの移住者を受け入れた島・種子島

下の西之表市地図の○は集落を示しています。その中で●は明治時代以降に島外から移住してできた集落です。市内91か所のうち、なんと31か所がそうです。この事実を知ったとき、わたしはたいへん驚きました。1/3もの数の集落の人がなぜ種子島に移住してきたのだろうか？そのわけを調べてみました。

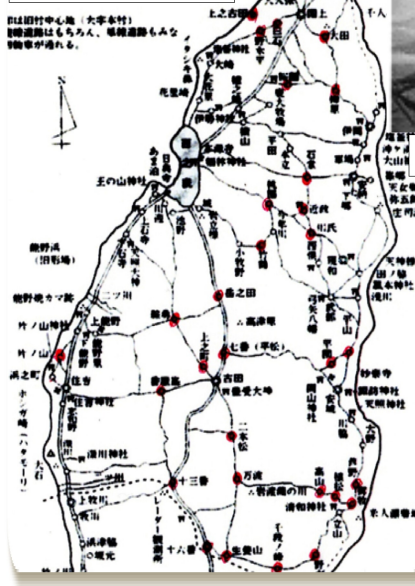
どこから、なぜ？

種子島をめざして移住した人々の以前の居住地はどこだろう。よっぽどのことがあったのだと思いました。

沖縄・与論島・沖永良部島・徳之島・奄美大島・喜界島・桜島・甑島（こしきしま）・山川・坊津・出水・川内・宮崎・香川・静岡など
＜移住の主な理由＞

- ◎明治14年～18年連続の台風による被害で甑島から
- ◎大正3年の桜島大噴火で桜島から
- ◎火災や飢饉

井元正流著
『種子島』より



噴火直後に避難

桜島を離れて

7年前、国上小学校で社会科の授業に当時桜園自治会長の長倉義秋さんを招き、児童とお話を伺いました。

＜噴火直後＞

着の身着のまま海に飛び込んだ。かれきにしがみついた。やけどした人はヨモギの葉をもんで巻きつけた。

＜島に着いて＞

昔の監獄所跡に家を三棟建てた。（右図）種子島で一番寒い場所の一つだ。井戸も共同風呂も自分たちで作った。

今村源一郎氏
によるスケッチ



茅ぶきの移住民収容所
8家族居住（大正3年）

＜生活＞

生きていくために開墾した。木を伐り、炭を焼き、背負って町に売りに行く。お金は服や食料に使う。もちろん子どもも一生懸命働いた。働くのが楽しくてたまらなかった。寺之門など隣りの集落の人が食べ物を提供してくれた。

江戸時代には

永俊尼、山田歌子、比志島國隆、久保之正ら配流された人々を受け入れ、生活を共にした。

外国船も

カシミア号、ドラメルタン号、鉄砲を伝えた南蛮船など座礁した船員を手厚くもてなした。

二本松集落

移住記念碑の裏にはこうある。

- 明治35年 甑島
- 明治40年 出水
- 明治40年 四国
- 大正3年 桜島
- 大正10年 大島
- 大正13年 川内
- 大正15年 宮崎
- 昭和4年 伊作



甑島郡人民移住報告に「種子島は人口に比して面積一人当たり一町一反四畝（約1.16ha）と予想以上に広い。開拓可能な原野もある。米やカライモは余剰を生じて鹿児島に移出する。砂鉄から鎌やハサミを造り、まるで独立国のようだ」とある。余裕ある土地と作物をもつ島は江戸時代から外来者を受け入れ、外国人さえも受け入れて世話をしたのだ。

たとえば言葉や風習の違いをも乗り越えた二本松集落のように、種子島は懐が深く、彩り豊かな歴史をもつ島なのである。（注釈：今村源一郎氏は今村病院初代院長）